

まだ、風が冷たい日もありますが、沖縄は“うりずん”の気持ちの良い季節となりました。昨年の冬に剪定した木々や草花も芽吹き庭に潤いをもたらし日々の生活を和ませてくれます。

沖縄県医師会報5月号は、これまで同様、盛りだくさんの内容となっています。

表紙は、仲本昌一先生撮影のコロナ禍前の2019年那覇ハーリーの写真です。馴染みのある祭りですが、検索してみるとハーリーは旧暦5月4日の沖縄の御願行事ひとつであり、独特な形と模様の爬龍船（はりゅうせん）と衣装での競争は祭りを盛り上げてくれます。

うりずんフェスタ印象記は、寒く雨降りにもかかわらず大盛況、各業種の協力とフェスタも根付いた感じを受けました。以前は、医師会主催のイベントといえは医療関係者以外は少なかったと思いますが、年々、来場者数、出展店舗数も増えうりずんフェスタは医療を身近に感じてもらう最高の催し物と思います。稲富先生もアジアン弁当、コーヒーを堪能して楽しんだ様子が伺え、主催者も楽しめる点も長続きする秘訣かもしれません。

出口先生からは、令和6年度那覇空港航空機事故対処部分訓練の報告が記載されています。旅行、学会などでお世話になっている飛行機ですが、特に沖縄に住んでいる者としてはかかせない移動手段となっています。人類の歴史上、現代は航空機離発着の過密となり、残念ながら

航空機事故もニュースなどで目にすることも少なくありません。航空機関連事故は多くの重症者が発生、各業種、病院の協力が重要になってきます。

月間行事は、子供の日に関連した“キッズの日はキズケアの日”。毎年、専門の先生に寄稿して頂いています。今回は、那覇市立病院の吉田先生が症例も提示しながら紹介しておりますが、ネグレクトも念頭に置きながら対応しなければならない事も挙げています。子供のケガは、予想外の受傷機転で起こってしまうこともあり状況を医療機関のみならず社会で共有して予防策を講じる必要性を説いています。

来月は、慰霊の日を迎えます。正本仁先生から「ある米兵の思い出」と題して、子供のころの鮮明な記憶と現在の世界状況をまじえて書かれています。第二次世界大戦戦後80年経過したが、まだ、戦争は無くならず世界の平和を強く願った随筆です。

各協議会報告は、本誌を参考にして頂きますが多くの問題点について検討された内容が載っており御一読願います。最近、人工知能（AI：Artificial Intelligence）がいろいろな業種で使用されています。編集後記の担当になると、AIに任せたらもっと上手く要約してくれるかなと頭をよぎってしまいます。書き手のデータを入力すれば、その人なりの文章も真似出来るのですが変な文章も模倣されてしまうのも心配です。

広報委員 久志 一朗

